

雜 詠

田 村 孤 雪

幌出でし伯母の笑顔やお年玉
探梅や垣越へ入りて叱らるゝ
花の雨あなどり難くなりにけり
水車踏む裸に笠や炎天下
忽然と蛋あらはれし本の上
秋風やめしひが櫓の古き鈴
縫ひ上げて長き夜親し手紙かく
唐黍に提灯吊るし在祭
日向ぼこ抑へし怒りいつかなし

學友の入營に

日蓮の魂うけよ入營子